

## ●地元で最も長い生垣―特別保護区から世田谷聖母幼稚園に向かう途中で―

特別保護区は、無原罪宣教女会の庭園の一部です。特別保護区の入口は、無原罪宣教女会の玄関の前庭に面しています。無原罪宣教女会の敷地周囲の生垣は、地元に残った最も長い生垣です。特別保護区散策の後、通りに出て生垣沿いを歩いて、同じ敷地内にある世田谷聖母幼稚園に向かいました。その間の無原罪宣教女会敷地北側の生垣は、ヒサカキ、ウバメガシ、サザンカの混植です。



←長い生垣 ↑ウバメガシ

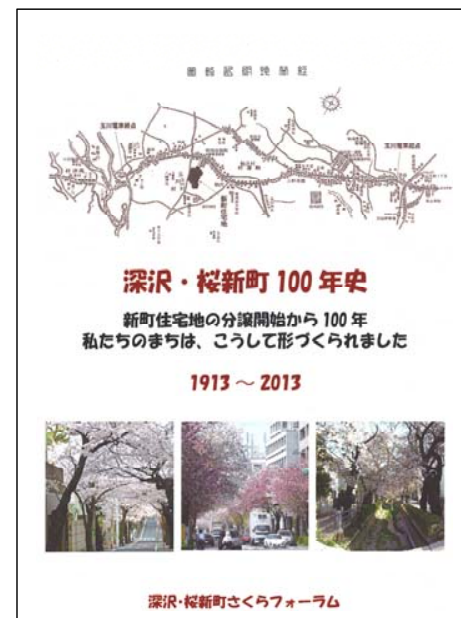
↑サザンカが混じる生垣  
←サザンカ  
左端は、原種に近いサザンカとのこと。

## ●さくらフォーラムから

- 本号の散策の報告は、案内いただいた樹木医の石井誠治さんのご協力を得てとりまとめました。
- さくらフォーラムのビブス作成 「みどりのまち歩き」でデビューしました。どうぞよろしく。



- 「深沢・桜新町 100 年史」の有償版（定価 500 円）を増刷  
購入ご希望の方は、下記までなるべくファックスで、ご住所、お名前、お電話番号をお知らせの上、お申込みください。
- 会員募集中**：この地域の景観・環境・みどりなどに関心のおありの方は、ぜひ、ご参加ください。ご連絡は、下記まで



発行元：深沢・桜新町さくらフォーラム <http://sakura-forum.jimdo.com/>  
〒158-0081 世田谷区深沢 8-19-6 フェリックス気付 電話：03(3702)3274 FAX：03(3702)3219

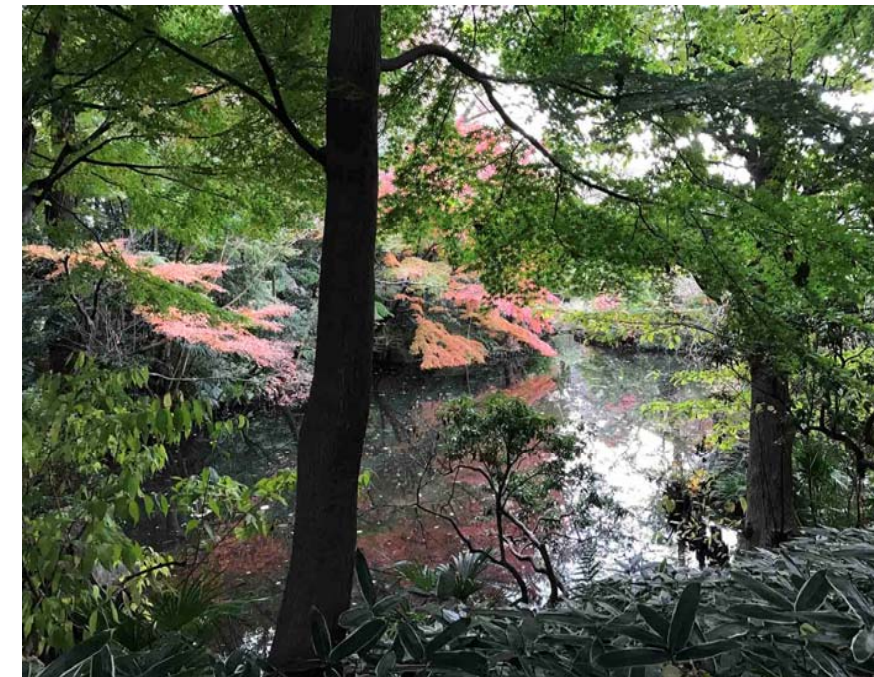
©深沢・桜新町さくらフォーラム、2016  
世田谷区地域の絆ネットワーク支援事業補助金を受けて作成しました。



深沢・桜新町 さくら フォーラム  
ニュースレター  
No 25 2016年12月

深沢・桜新町さくらフォーラムは、地域の風景づくりの活動に取り組む市民団体です。<http://sakura-forum.jimdo.com/>  
2、3面：深沢八丁目無原罪特別保護区散策でのお話 4面：地元で最も長い生垣、さくらフォーラムから

## 11月26日（土）秋の特別公開日の午後 深沢八丁目無原罪特別保護区を散策



上と右下の写真は、坂上直哉会員撮影

### 樹々が色づいた特別保護区

2日前に雪が降ったのが心配だった空のようすも、26日当日は好天に恵まれ、スタッフ共々18名の参加者が樹々がきれいに色づいた深沢八丁目無原罪特別保護区（深沢8-13）の散策を楽しみました。（深沢の杜緑地散策は、割愛）

その後、隣接した世田谷聖母幼稚園のホールで石井さんを囲んで懇談。参加者の質問からお話が広がり、また、持参くださった指先ほどの小さな顕微鏡を覗かせていただいたりしました。



### 石井誠治さんのご案内で

案内役は、これまでもお世話になっている樹木医の石井誠治さん。上北沢にお住まいで上北沢桜並木の保存にもかかわりながら活躍されています。

軽いジョークを飛ばしながら、また、「足元が土に変わりましたから滑らないように」などのご注意も交えて、草木について、またその人間の生活との関わりについて楽しく説明してくださいました。次から次へとお話は、広がり、知らなかったことばかり、予定を超えて2時間をこの特別保護区で過ごしました。特別保護区内の植物40種類近くの名前が出ました。

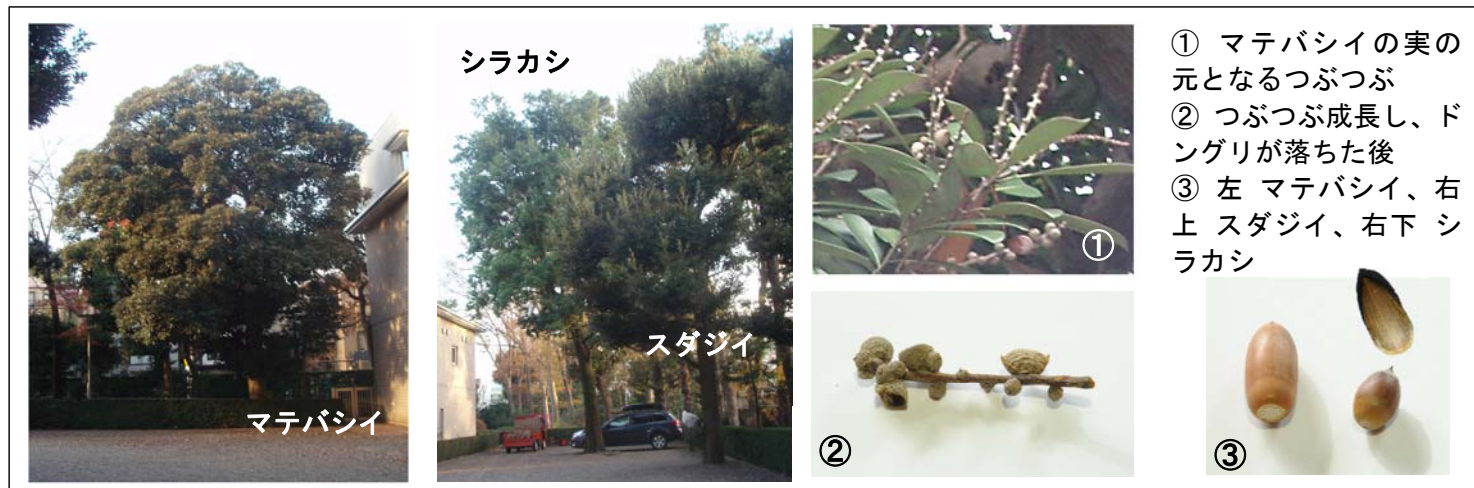


## ■特別保護区の散策—樹木医石井誠治さんのお話から—

### ●3種類のドングリ—保護区入口前の修道院前庭の集合場所で

集合場所の砂利敷きの前庭から石井さんのお話は、始まりました。

ここには、ドングリのなる樹が3種類あります。砂利の中でも目立つ明るい茶色の大きいのがマテバシイのドングリ、砂利と見間違える小さいのがシラカシのドングリ。中間の大きさがスダジイのドングリ、これは、10月初めに実がなるので、もう残っていません。関東でシイというとはスダジイです。マテバシイ（道路から入って左側の大きな樹）をよく見てください。細い枝につぶつぶ（写真参照）が着いていて、これが1年半かけて大きくなって来年のドングリになるんですよ。このドングリはお尻が平らだから立つのが特徴、硬いけどおいしいです。食べられるのは、シイとマテバシイ、食べられるからシイの標記なのです。シラカシは、渋いです。シラカシのドングリをカケスは、貯食して渋いタンニン成分が分解してから食べます。1年で実るので成熟が遅くて、今、たくさん落ちていますね。

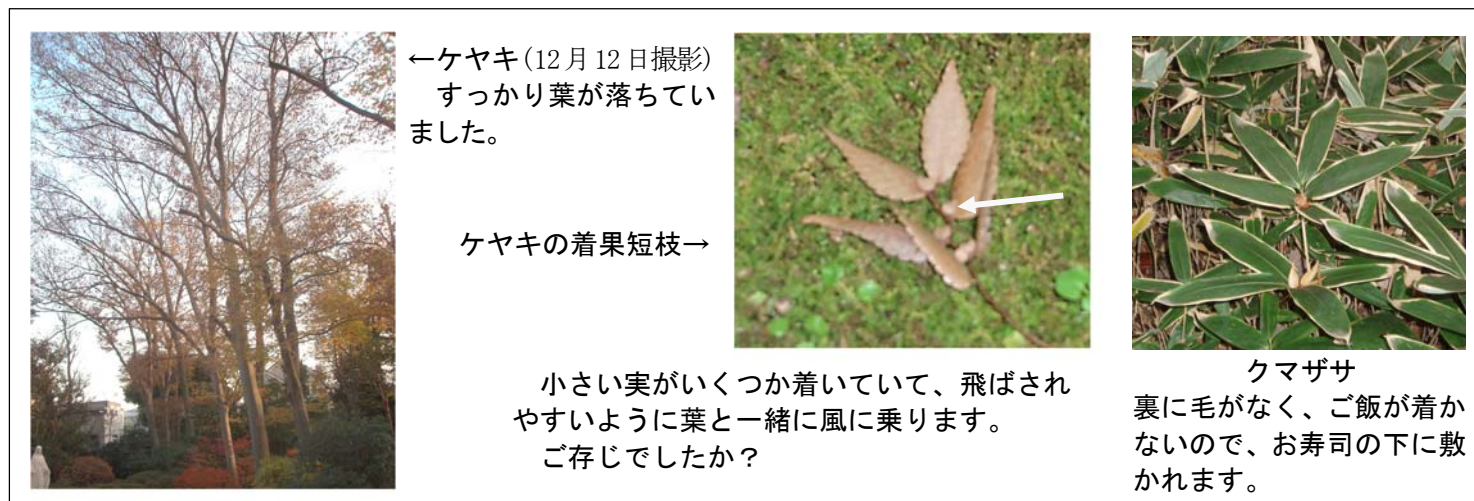


### ●ケヤキの小さい実がついた枝—保護区入口近くのケヤキ

ケヤキの落葉を見てください。小さな枝にいくつかの葉と小さい実がついたのがあるのは、着果短枝（写真参照）といって、この状態で、風に吹かれて飛んでゆきます。小さい実で葉っぱがたくさん付いている方が風に乗やすいんですね。その実が住宅のベランダに置いてあるプランターに着地して、芽が生えてくることもあるんですよ。実がつかないで1枚で落ちる葉も混じってますね。

### ●クマザサの名は、歌舞伎のメイク（隈どり）から

クマの名がついていますが、熊の出るような山奥には生えていません。寒くなると葉のふちだけが白くなり、それが歌舞伎のメイクの隈（くま）のように見えるのでそう名づけられました。もともとは京都の山林に生えていた種類で、それが樹木の根締めとして庭園に植えられるようになって広がり、江戸時代には江戸の大名屋敷の庭にも普及しました。



### ●ホンサカキとヒサカキ—神事に使われる

ヒサカキの名前の意味は「姫榊」とも「非榊」とも言われます。神社の祭祀に用いるのは、本来はホンサカキですが、関東は少し寒いので、ホンサカキが少なく葉のふちにギザギザのあるヒサカキを使っています。ヒサカキの花も臭いですが、同じ属のハマヒサカキの花は都市ガスに似た強烈な臭いがします。臭いが強いのは、昆虫を誘って花粉を運ばせるためです。この保護区の南側にホンサカキも生えていて、おそらく池の東側にある大きな木から種が運ばれて生えたものでしょう。このように風や鳥の力を借りて、木も移動してゆくわけですね。

### ●トベラは「扉の木」から—人の生活との関わりから名前がついた木は、少なくない

トベラは、細長くて先の丸い葉が特徴です。葉先が尖っているのは雨水を流しやすいため。雨の少ない土地に生えると、尖る必要がない。日本でも自生しているのは雨の少ない海岸地方です。葉や枝から悪臭を発するところから、ヒイラギの代用品として節分にこの枝に鯛を挿して扉にかけて、疫病や鬼神を払う風習が生まれました。そこでトビラノキと呼ばれたのがトベラに変わったようです。



### ●赤い実のなる木—ナンテン、マンリョウ、センリョウ

センリョウは葉の上に、マンリョウは葉の下に赤い実をつけます。マンリョウの上は、ヒヤクマンリョウ、嘘です（笑い）。赤い色は、おめでたいとされていて、伐っても増えるセンリョウは、お正月によく使われますね。マンリョウは、茎1本に花をつけるので、伐るとそれで終わりです。

ナンテン（南天）は、「難を転ずる」に通じるので、おめでたいとされています。

### ●湧水池まわりの紅葉—ミスキ、リュウキュウハゼ、カエデが順番に紅葉

紅葉の時期がずれる種類の木を並べて、秋の色を長いあいだ楽しめるように工夫したのでしょうか。リュウキュウハゼは、もとは沖縄から来た種類ですが、九州地方で鍋島藩が和蠟燭を作って売るための原料として盛んに栽培しました。江戸時代中期からは紅葉を楽しむ目的で大名庭園に植えられました。

ヤマハゼは、葉に毛が生えているのでわかります。葉の裏を見るのも匂いのかぐのも大事ですよ。

